

広報 すぎなみ

Suginami



支えあい共につくる
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

{ 11/15 }
平成29年(2017年)
No.2216

杉並に思い集めて
NPOと築く次の社会。

社会課題の解決を目指して活動するNPOへの関心が高まっています。一方で、「NPOって何？」と疑問に思う人は、まだまだ多いのではないのでしょうか。NPOにはどんな人が集まり、何をしているのか。大学を卒業してからNPO活動一筋に打ち込んできたという、認定NPO法人カタリバの低引稔(そこびき・みのる)さんに、NPOに関するさまざまなことを伺いました。

特集

すぎなみピト

低
引
稔

Contents — 主な記事 —

7 | 区民意向調査の結果 8 | 人権週間 9 | 杉並区障害者週間 16 | すぎなみ観光大使 活躍中!

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <http://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。

やる気さえあればNPOで活躍できる

—NPOとは、どんな団体なのでしょう。

NPOは、社会課題を解決したいと考える人たちが集まって活動している団体です。利益を目的とせず、社会課題解決のためだけに活動するので、株主の意見を聞いて利益を確保しなければならない株式会社と比べて、真っすぐ、しかも力強く社会課題に迫ることができます。また、やる気さえあれば誰でも参加できるのもNPOの特徴です。貢献の仕方はその人次第。職員として団体の運営に携わる以外にも、ボランティアとして関わったり、寄付者として活動に貢献できます。このようにNPOは、多数の人が社会課題の解決という目標に向かおうというとき、一緒に活動できる器の役割も果たします。

—大学を卒業してすぐにNPOで働きはじめたそうですね。

物理の先生になりたくて大学に進学したのですが、次第に「先生になって子どもたちに何を伝えたいんだろう」と自問自答するようになりまし

た。そんなとき、授業で学んだのが「米国ではNPOを職業にしている人がいる」ということ。それを聞いて居ても立ってもいられなくなり、いくつもの勉強会に出席するなどしてNPOについて徹底的に学びました。そうした中で「フローレンス」という病児保育支援のNPOの代表者と知り合い、大学を卒業後、すぐに活動に参加しました。これが私のNPO活動の第一歩です。

フローレンスで働いたのは5年間です。「社会課題の解決のために、自分ができることがもっとあるのでは」という思いを胸に退職して、個人でIT関連の仕事をしていたのですが、そのときITシステム導入のお手伝いをしたのが、現在私が勤めているカタリバです。

粘り強い行動で成果を目指す

—NPOの仕事のやりがいを教えてください。

たくさんあるので答えに迷います。でも、やはり一番は、支援を必要としている人と直接触れ合うので、自分たちの支援がその人に届いたことを実感

できることですね。それともうひとつ、私たちの活動には多数の学生がボランティアスタッフとして参加しているのですが、彼らの成長を間近に見られることも、やりがいになっています。

—NPOに参加するためには何が必要ですか。

誰かの役に立ちたくても、「自分にはスキルも経験もないから力になれない」と言って一歩踏み出せない人は少なくありません。私は、その考えが本当にもったいないと思います。スキルがなくても、NPOに参加するときさまざまな人に協力してもらえますし、スキルはそうやって活動しながら身に付けていくものだと思います。何より大切なのは、「社会課題を解決したい」という真っすぐな思いなんじゃないかな。また、実際にNPOで働くと、自分の努力が社会課題の解決になかなかつながらなくて、「こんなはずじゃなかった」と歯がゆい思いを持つことがあるかもしれませんが、そんなときも自分の力不足だなんて思わないでください。その歯がゆさは、社会課題の解決に向けた原動力になるものです。何かの高度なスキルではなく、こうした感覚を持ち続けて、粘り強く課題の解決に向かっていくことの方が重要だと思います。

—粘り強く活動を続けたことで何かが変わったと感じたことはありますか。

被災地の子どもたちの支援活動を始めたときのことです。当初、「東京か

らきたNPOに、何ができるんだ」と言って、私たちを受け入れてくれませんでした。それでも私たちは諦めずに活動を続け、4年目に、とうとうその町の先生方の飲み会に呼んでもらうことができました。ようやく新しい町と一緒に作る担い手だということも認めてもらえたのです。信頼関係を築くことはとても難しいのですが、粘り強くやり続ければ、思いは通じるのだと実感できた出来事でした。

—杉並区のNPO支援にもご協力いただいているそうですね。

杉並区のNPO支援基金への寄付啓発に取り組んでいるNPO支援基金普及委員を務めました。現在は、集まった寄付による助成事業の審査をするNPO等活動推進協議会委員をしています。行政によるNPO支援の活動に参加したことで、若い人だけでなく、シニアや女性など、さまざまな方がNPO活動に




社会をよくするために、

interview

すぎなみビト × 低引穂

プロフィール：低引穂（そびき・みのる）。認定NPO法人カタリバ職員。昭和58年生まれ。平成17年、認定NPO法人フローレンスに新卒で参加。23年から認定NPO法人カタリバに参加。現在、経営管理本部ディレクターを務める。

NPOで働くという選択肢があると知った。

参加していて、それぞれの思いを実現していると知ることができました。とても貴重な経験だったと思います。



高校生一人一人との対話を大切に「カタリ場」

—今後の抱負をお願いします。
NPOの可能性をたくさんの人に伝えていきたいと思っています。私には、自分が思い描く社会の姿を、NPOの仕事を通じて徐々に実現しているという実感があります。その経験から思うのですが、強い思いさえあれば、誰にだってこうあってほしいと考える社会を実現できます。ですから、何かを変えたいという思いがあるなら、ぜひNPOに参加して、やりたいことに挑戦してみたいと思います。「自分は何もできないから」と言って何もしないのはもったいない。まずは飛び込んでください。



カタリバでは、職員、ボランティア、寄付者など、多様な人たちが協力し合いながら、課題の解決に向けて活動している。就職経験のない学生たちにとっては、さまざまな活動が社会経験となり、大きな成長へとつながっている。

低引さんが活躍中の「認定NPO法人カタリバ」とは？

認定NPO法人カタリバは、どんな環境で育った子どもたちも「未来は創り出せる」と信じられる社会を目指し、さまざまな教育活動を行っています。主な活動として、高校生への動機付けキャリア学習プログラム「カタリ場」が挙げられます。「カタリ場」プログラムでは、たくさん的高校生たちの背中を押してきました。カタリバ <https://www.katariba.or.jp/>

大学生インタビューに聞きました。

高校時代から大学入学直後にかけては、何をやってもつまらないと感じていた私でしたが、カタリバの活動で全国各地に出掛け、大勢の高校生と対話してきた経験を通じて、これから自分がどんな人生を歩いていきたいのかが見えてきたように思います。

アンターン3年目の高橋亜さん（大学3年生）

もっと知りたい！ NPO Q&A

Q1. NPOって何の略？
A. 「Non-Profit Organization」または「Not-for-Profit Organization」の略称で、直訳の意味は「非営利組織」です。

Q2. どんな活動をしているNPO法人があるの？
A. 子どもの貧困、介護者支援、世代間交流や障害者との共生社会づくりなど、その活動範囲は広く、より豊かな社会をつくるために活動しています。

Q3. 区内で活動しているNPO法人数は？
A. 342団体(29年3月末現在)です。

NPOのことは、すぎなみ協働プラザにお任せください！
地域活動・NPO法人の立ち上げから専門的なことまで、なんでもご相談ください。
すぎなみ協働プラザ(阿佐谷南1-47-17阿佐谷地域区民センター4階 ☎3314-7260)

NPOに興味を持ったあなたへ！
すぎチャリ！2017

子どもから高齢者まで楽しみながらチャリティーやNPOの地域活動に親しんでいただけるイベントです。
11月26日(日)午前10時～午後3時 阿佐谷地域区民センター(阿佐谷南1-47-17)

詳細は、16面をご覧ください。